

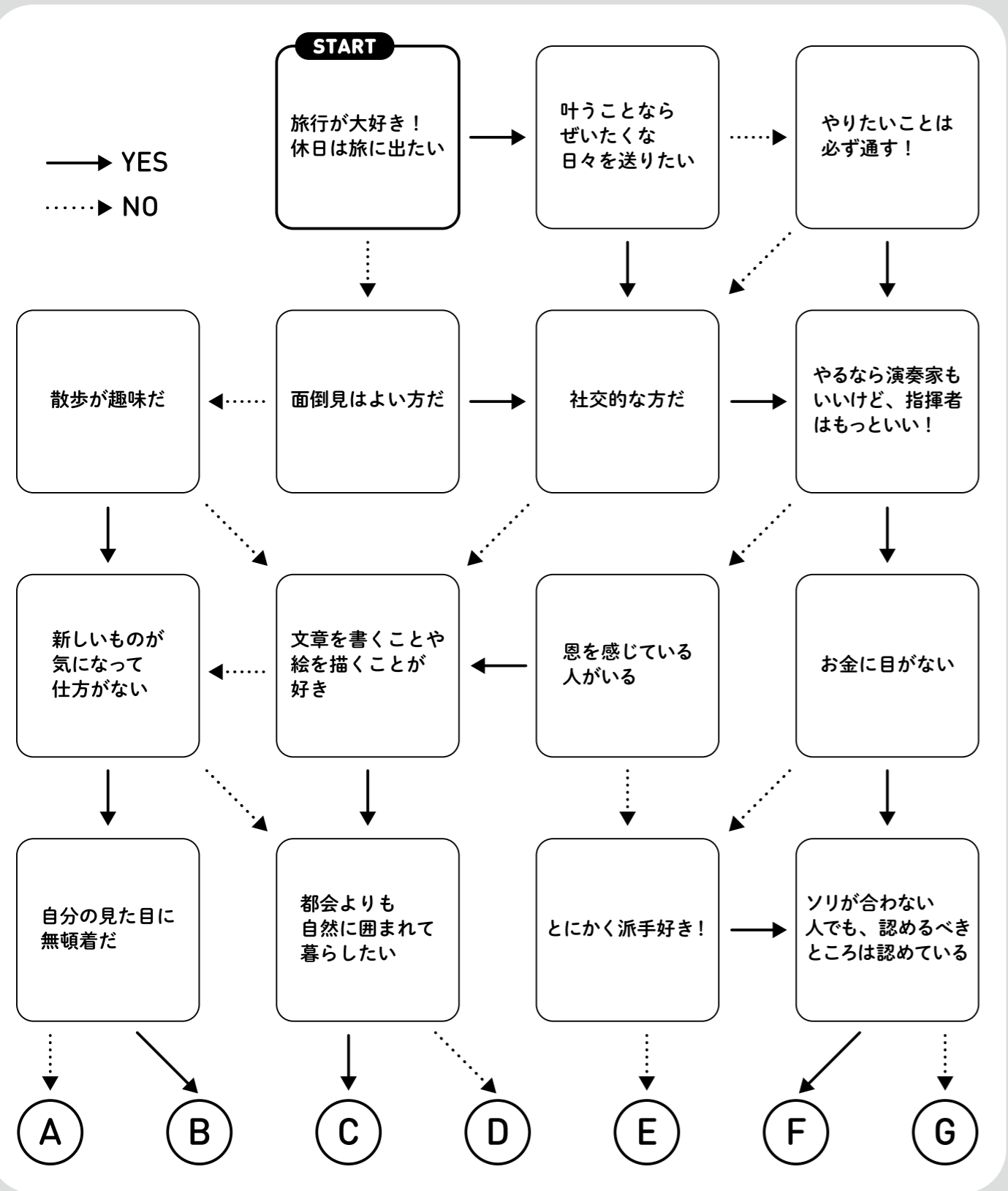
# 音楽診断

あなたのタイプは？

## 第1回 ドイツの作曲家編

教育芸術社オリジナルでお届けする音楽診断企画のスタートです。  
第1回のテーマは、ドイツで生まれた作曲家。バロック時代からロマン派まで、7人の作曲家の中から、あなたに似ているタイプの作曲家をご紹介します。

監修・解説 = 奥田佳道  
Text = Yoshimichi Okuda



### あなたはどの作曲家？

#### A 勤勉家にして芸術家 J.S.バッハ (1685-1750)

クラシック音楽の父。バッハ家は16世紀以後ドイツ中部チューリンゲン地方で活躍した音楽家一族だった。アイゼナハ生まれのヨハン・ゼバスティアン(J.S.)は傑出したオルガニスト、チェンバリスト、ヴァイオリニスト、作曲家としてドイツ各地の宮廷に仕え、器楽曲や宗教曲を創作。1723年以降、ライプツィヒ聖トーマス教会のcantor(合唱長)に就任。多くの教会カンタータ、受難曲を作曲する一方、合奏団コレギウム・ムジクムとも関わった。主要作品に『マタイ受難曲』、『ヨハネ受難曲』、ミサ曲短調、無伴奏ソナタに組曲、『ブランデンブルク協奏曲』、管弦楽組曲など。



#### C 繊細な感性のロマンティスト シューマン (1810-1856)

幻想的な音楽と波乱に満ちた生涯——まさにドイツ・ロマン派の化身ともいべき作曲家である。名教師フリードリヒ・ヴィークのもとでピアニストを志したが指を痛めて作曲と文筆の世界に傾倒。1830年代は『交響的練習曲』『謝肉祭』『子供の情景』などピアノ曲の創作にほぼ専心。ヴィークの娘クララと結婚後は歌曲集『ミルテの花』『女の愛と生涯』『詩人の恋』などを相次いで作曲。4曲の交響曲、ピアノ協奏曲、チェロ協奏曲、室内楽曲も愛されている。音楽評論家としてメンデルスゾーン、ショパン、ベルリオーズを評価し、若き日のブラームスを見いだした。



#### E 他芸術にも通じた優雅な才人 メンデルスゾーン (1809-1847)

恵まれた環境に育ったロマン派の才人で、シューマンによって「私たちの時代のモーツァルト」と評された。流麗かつ情熱的な音楽が身上で、1826年、17歳の年に名作「夏の夜の夢」序曲を作曲。その17年後に「結婚行進曲」を含む劇付随音楽を書いた。指揮者としてバッハの『マタイ受難曲』に光を当てたほか、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の楽長に就任。歴史的公演を指揮した。交響曲第3番《スコットランド》、第4番《イタリア》、ヴァイオリン協奏曲、ピアノ三重奏曲第1番、オラトリオ『エリヤ』などが人気。水彩画もうまい。姉のフニーも才能ある音楽家。



#### G 自分の世界を極めた職人 R.シュトラウス (1864-1949)

巧緻にして壮麗なオーケストレーション(管弦楽法)を誇るドイツ・ロマン派最後の名匠で、交響詩、歌劇、歌曲に逸品が多い。リストの標題音楽やワーグナーの筆致からも影響を受け、交響詩『ドン・ファン』『死と変容』『ティル・オイレンシュピーゲルの愉快なはずら』『ドン・キホーテ』『英雄の生涯』などを作曲。1900年以降は斬新な『サロメ』『エレクトラ』、1911年以降は『ばらの騎士』『ナクソス島のアリアドネ』『影のない女』『アラベラ』を書き、楽劇の世界を極めた。ウィーン国立歌劇場並びに同フィル指揮者としても活躍。最晩年の名作に「4つの最後の歌」など。



#### B 未来を開拓する鬼才 ベートーヴェン (1770-1827)

1790年代の後半からウィーンを拠点に時代も次代も切り拓いた。まずは鍵盤のヴィルトゥオーゾとして登場。1800年春、29歳のときに交響曲第1番を発表し、1824年までに9曲の交響曲を書く。圧倒的なスケールを誇る第3番《英雄》、動機の展開を極めた第5番通称《運命》に第6番《田園》、舞踏の神格化とも評された第7番、終楽章に声楽を添えた第9番以外もすばらしい。貴族のサポートも彼の創作を後押しした。若き日から第9番以降も創作を続けた弦楽四重奏曲の他、協奏曲、室内楽、器楽曲、『ミサ・ソレムニス』など、傑作は枚挙にいとまがない。



#### D 伝統を重んじる こだわり派 ブラームス (1833-1897)

彫りの深い音楽を紡いだウィーンの名士で、伝統と格式を誇るウィーン楽友協会の監督(指揮者)も務めたが、出身はドイツ北部の港町ハンブルク。若い頃、共演したヴァイオリニストを通じて、ジプシーやハンガリーの音楽に興味を抱く。1853年、20歳の年にローベルト&クララ・シューマン夫妻に見いだされ、作曲活動を本格化。優れたピアニストでもあり2曲の協奏曲、多くのソナタ、室内楽曲を自ら初演。1876年、43歳の年に満を持して交響曲第1番を発表。交響曲第2番、第3番はウィーン・フィルによって初演された。世代は離れているがベートーヴェンの「後継者」的存在。



#### F 情熱的でアクティブな自信家 ワーグナー (1813-1883)

中世の伝説や北欧の神話をもとに、自ら台本も書いた長篇歌劇を作曲し、ヨーロッパの文学、思想界にも絶大な影響を与えた。その気宇壮大な音楽を愛したバイエルン王ルートヴィヒ2世の経済的支援などにより、バイロイトに祝祭劇場が建ち、1876年にはワーグナー作品による音楽祭も始まった。序夜と三夜(ラインの黄金、ワルキューレ、ジークフリート、神々の黄昏)からなる『ニーベルングの指環』の上演時間は休憩なしで16時間にも及ぶ。他の名作に『タンホイザー』『ローエングリン』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『トリスタンとイゾルデ』。



奥田佳道(音楽評論家)

1962年東京生まれ。ヴァイオリンを学ぶ。ドイツ文学、西洋音楽史を専攻。ウィーン大学に留学。NHKや日本テレビ、WOWOWの音楽番組に出演。現在NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」パーソナリティのひとり。「ラジオ深夜便〈クラシックの遺伝子〉」などに出演中。著書に「これがヴァイオリンの銘器だ」(音楽之友社)ほか。

ウィーンで活躍したハイドン、モーツァルト、シューベルトなどの人気作曲家は「オーストリアの作曲家編」でご紹介します(掲載号未定)。